

Annual Report 2023

Center for Professional Development in Nursing
Kyoto Tachibana University

京都橘大学
看護教育研修センター

年報 2023

INDEX

刊行にあたって 3

沿革 4

組織 10

認定看護師教育課程 11

キャリア開発事業 15

刊行にあたって

京都橘大学看護教育研修センター所長

奥野信行

京都橘大学看護教育研修センターは、「看護職者の専門性を高め、その看護実践力を向上させるための教育研修を行うとともに、地域に貢献する看護職者を育成すること」を目的とし、「認定看護師教育課程」と「看護キャリア開発事業」の二本柱で活動しています。

認定看護師教育課程は、2022年度から特定行為研修を組み込んだ教育課程（B課程）として新たなスタートを切りました。皮膚・排泄ケア分野の認定看護師を目指す30名の研修生が入学し、講義と演習、実習において懸命に学習に取り組んでくれています。おかげさまで、毎年、多くの看護職の皆様にご受診いただいております。この分野の教育ニーズの高さが窺い知れます。次年度から、教員を増員し、より一層に充実した教育体制で研修生を迎える準備をいたしております。

看護キャリア開発事業は、今年度より、「学修成果レポート作成スタート支援講座」が本学通信教育課程に移行し、「たちばなSIM」「看護倫理研修」となりました。2012年度からスキルラボ事業として始まった「たちばなSIM」は、大学卒業後、臨床においてよりそう看護を実現すべく、学び続けている看護学部卒業生や共に勤務する看護職を対象とした継続教育を目的としています。本学清優館1階には、シミュレーションを活用した教育のために整備された「シミュレーションコモンズ」（シミュレーションルーム）があります。このシミュレーションコモンズでは、映像・音響システムが設備されており、集中治療室（ICU）や一般病棟、分娩室、在宅での現場、災害現場などさまざまな臨床現場を再現することができます。「たちばなSIM」では、シミュレーションコモンズを活用して、シミュレーション教育を積極的に取り入れた研修プログラムを実施し、看護職者の学び直し、学びほぐしを支援しています。

看護倫理研修は、臨床現場で生じる倫理的問題に向き合うために必要な看護倫理の基本的な考え方を学びます。講義に加えて、臨床現場の身近な事例を活用したグループディスカッションを行い、倫理的な思考プロセスを整理し、必要な看護実践について検討しています。参加者の方々からは、「日常的に倫理を考え、発信していきたい」「倫理的なカンファレンスの機会を院内でも作ってほしい」といった感想がありました。今後も参加者の皆様にとって、実りある学びの機会になるように充実させていきたいと考えております。

各事業の一年間の活動の詳細は、本年報にてご報告いたしますので、ご覧くださいませようお願い申し上げます。また忌憚のないご意見を頂戴できれば幸いです。

今後も、本センターは、看護職としての成長やキャリア開発のために活用して頂けるよう、努めて参ります。また地域に開かれた大学に附置するセンターとしての役割とその重要性を自覚し、活動の充実を図っていきたくと考えております。引き続き、ご支援、ご指導のほど、よろしく願いいたします。

沿革

1) 認定看護師教育課程 教員会

開催時期	内 容
2007年度 4月 17日 11月 27日	入試・入学状況と年間計画 修了判定会議と次年度入学までの予定確認および承認
2008年度 4月 23日 11月 26日	入試結果、入学状況、年間教育実施計画および次年度予定について内容の検討と承認 修了判定会議と次年度予定確認および承認
2009年度 4月 22日 12月 15日	2008年認定部審査結果、2009年度入試結果、入学状況と年間教育実施計画の検討 および承認 2009年度生の修了判定会議、2010年度入試結果の確認および承認
2010年度 4月 21日 12月 7日	2010年度入試結果、入学状況と年間教育実施計画の検討および承認 再修了試験不合格者に対する対応について審議 修了生を含めた皮膚・排泄ケア認定看護師を対象としてフォローアップセミナー開催について検討 および承認 2010年度生の修了判定会議、2011年度入試結果の確認と承認
2011年度 4月 27日 12月 14日	2010年度修了報告および2011年度入試結果について確認と承認 年間教育実施計画の検討および承認 2011年度生の修了判定会議、2012年度入試結果の確認と承認 休学者が復学する場合の条件等について検討と承認
2012年度 4月 18日 12月 18日 2月 14日 (臨時)	2011年度修了報告および2012年度入試結果について確認と承認 フォローアップセミナーを含む年間教育実施計画および皮膚・排泄ケア分野カリキュラム改訂につ いて検討および承認 2012年度生の修了判定会議、2013年度入試結果の確認と承認 開講期間延長について審議 修業年限・課程の終始期・入学資格に関する規定改訂内容について審議および承認 情報管理誓約書、教員会規定改訂について審議および承認、長期欠席規定については 継続審議となる
2013年度 4月 25日 12月 19日	2012年度修了報告および2013年度入試結果について確認と承認 年間教育実施計画の検討および承認 2014年度5月開講について審議および承認 2013年度生の修了判定会議 実習不合格による再履修希望者について審議および承認 授業時間変更について審議および承認 授業時間に関する規定改訂内容について審議および承認 2014年度入試結果の確認と承認
2014年度 4月 23日	2013年度修了報告および2014年度入試結果について確認と承認 年間教育実施計画の検討および承認 センター教員の社会貢献活動報告および2014年度の計画の報告 第4回フォローアップセミナー開催について検討および承認

開催時期	内 容
2014年度 12月 9日	2014年度生の修了判定会議、2015年度入試結果の確認と承認 2015年度教育期間の確認と承認
2015年度 4月 22日	2014年度修了報告および2015年度入試結果について確認と承認 年間教育実施計画の検討および承認
12月 10日	センター教員の社会貢献活動報告および2015年度の計画の報告 2015年度生の修了判定会議、2016年度入試結果の確認と承認 2016年度教育期間の確認と承認
2016年度 4月 20日	2015年度修了報告および2016年度入試結果について確認と承認 年間教育実施計画の検討および承認 皮膚・排泄ケア分野カリキュラム改訂について確認と承認
12月 13日	センター教員の社会貢献活動報告および2016年度の計画の報告 2016年度生の修了判定会議、2017年度入試結果の確認と承認 2017年度教育期間の確認と承認
2017年度 4月 19日	2016年度修了報告および2017年度入試結果について確認と承認 年間教育実施計画の検討および承認 皮膚・排泄ケア分野カリキュラム改訂について確認と承認
12月 15日	センター教員の社会貢献活動報告および2017年度の計画の報告 2017年度生の修了判定会議、2018年度入試結果の確認と承認 2018年度教育期間の確認と承認
2018年度 4月 18日	2017年度修了報告および2018年度入試結果について確認と承認 年間教育実施計画の検討および承認
12月 13日	センター教員の社会貢献活動報告および2018年度の計画の報告 2018年度生の修了判定会議、2019年度入試結果の確認と承認 2019年度教育期間の確認と承認
2019年度 4月 17日	2018年度修了報告および2019年度入試結果について確認と承認 年間教育実施計画の検討および承認
12月 12日	センター教員の社会貢献活動報告および2019年度の計画の報告 2019年度生の修了判定会議、2020年度教育期間の確認と承認
2020年度 4月 15日	2019年度修了報告 年間教育実施計画の検討および承認
2月 10日	センター教員の社会貢献活動報告および2020年度の計画の報告 2020年度生の修了判定会議、2021年度休講に関する確認と承認
2021年度 4月 15日	2020年度修了報告 復学・再履修者の年間教育実施計画の検討および承認 センター教員の社会貢献活動報告および2021年度の計画の報告 第一回特定行為研修管理委員会

開催時期		内 容
2021年度		
10月	8日	特定行為研修を組み込んだ教育課程（B課程）に関する方針および教育計画について 第二回特定行為研修管理委員会
2月	10日	復学・再履修者の修了判定会議、2022年度教育期間の確認と承認 第三回特定行為研修管理委員会
2022年度		
4月	13日	2021年度復学・再履修者修了報告 年間教育実施計画の検討および承認 センター教員の社会貢献活動報告および2022年度の計画の報告 第一回特定行為研修管理委員会
10月	25日	2022年度教育課程の進捗状況および研修生の成績について 第二回特定行為研修管理委員会
3月	9日	2022年度生の修了判定会議、2023年度入試結果の確認と承認 2023年度教育期間の確認と承認 第三回特定行為研修管理委員会
2023年度		
4月	12日	年間教育実施計画の検討および承認 センター教員の社会貢献活動報告および2023年度の計画の報告 第一回特定行為研修管理委員会
10月	25日	2023年度教育課程の進捗状況および研修生の成績について 第二回特定行為研修管理委員会
3月	7日	2023年度生の修了判定会議、2024年度入試結果の確認と承認 2024年度教育期間の確認と承認 第三回特定行為研修管理委員会

2) 看護キャリア開発委員会

2012年度

4月	16日	第1回看護キャリア開発委員会
5月	7日	第2回看護キャリア開発委員会
6月	7日	第3回看護キャリア開発委員会
7月	3日	第4回看護キャリア開発委員会
7月	31日	第5回看護キャリア開発委員会
9月	19日	第6回看護キャリア開発委員会
10月	16日	第7回看護キャリア開発委員会
11月	20日	第8回看護キャリア開発委員会

2013年

1月	16日	第9回看護キャリア開発委員会
2月	19日	第10回看護キャリア開発委員会
3月	19日	第11回看護キャリア開発委員会

2013年度

4月	17日	第1回看護キャリア開発委員会
5月	21日	第2回看護キャリア開発委員会
6月	17日	第3回看護キャリア開発委員会
7月	23日	第4回看護キャリア開発委員会
9月	18日	第5回看護キャリア開発委員会
10月	23日	第6回看護キャリア開発委員会
11月	27日	第7回看護キャリア開発委員会

2014年

1月	22日	第8回看護キャリア開発委員会
----	-----	----------------

2014年度

4月	23日	第1回看護キャリア開発委員会
5月	29日	第2回看護キャリア開発委員会
7月	23日	第3回看護キャリア開発委員会
9月	17日	第4回看護キャリア開発委員会
11月	4日	第5回看護キャリア開発委員会

2015年

1月	6日	第6回看護キャリア開発委員会
3月	5日	第7回看護キャリア開発委員会

2015年度

4月	15日	第1回看護キャリア開発委員会
5月	27日	第2回看護キャリア開発委員会
7月	6日	第3回看護キャリア開発委員会
9月	10日	第4回看護キャリア開発委員会
10月	14日	第5回看護キャリア開発委員会
11月	27日	第6回看護キャリア開発委員会

2016年

1月	6日	第7回看護キャリア開発委員会
2月	10日	第8回看護キャリア開発委員会

2016年度

4月	5日	第1回看護キャリア開発委員会
5月	23日	第2回看護キャリア開発委員会
6月	20日	第3回看護キャリア開発委員会
8月	3日	第4回看護キャリア開発委員会
9月	21日	第5回看護キャリア開発委員会
10月	24日	第6回看護キャリア開発委員会
12月	2日	第7回看護キャリア開発委員会
2017年	2月	15日 第8回看護キャリア開発委員会

2017年度

4月	18日	第1回看護キャリア開発委員会
5月	23日	第2回看護キャリア開発委員会
7月	12日	第3回看護キャリア開発委員会
9月	26日	第4回看護キャリア開発委員会
10月	30日	第5回看護キャリア開発委員会
12月	18日	第6回看護キャリア開発委員会
2018年	2月	16日 第7回看護キャリア開発委員会

2018年度

4月	17日	第1回看護キャリア開発委員会
7月	11日	第2回看護キャリア開発委員会
9月	19日	第3回看護キャリア開発委員会
10月	16日	第4回看護キャリア開発委員会
11月	21日	第5回看護キャリア開発委員会
2019年	2月	18日 第6回看護キャリア開発委員会

2019年度

4月	23日	第1回看護キャリア開発委員会
5月	27日	第2回看護キャリア開発委員会
6月	27日	第3回看護キャリア開発委員会
9月	6日	第4回看護キャリア開発委員会
10月	4日	第5回看護キャリア開発委員会
12月	6日	第6回看護キャリア開発委員会
2020年	2月	7日 第7回看護キャリア開発委員会

2020年度

4月		第1回看護キャリア開発委員会
5月		第2回看護キャリア開発委員会
7月	22日	第3回看護キャリア開発委員会
11月	2日	第4回看護キャリア開発委員会
2021年	1月 18日	第5回看護キャリア開発委員会
	2月 15日	第6回看護キャリア開発委員会

2021年度

4月	26日	第1回看護キャリア開発委員会
5月	25日	第2回看護キャリア開発委員会
10月	22日	第3回看護キャリア開発委員会
2022年	1月 14日	第4回看護キャリア開発委員会

2022年度

4月	26日	第1回看護キャリア開発委員会
5月	27日	第2回看護キャリア開発委員会
7月	29日	第3回看護キャリア開発委員会
2023年	1月 17日	第4回看護キャリア開発委員会

2023年度

4月	27日	第1回看護キャリア開発委員会
6月	1日	第2回看護キャリア開発委員会
10月	31日	第3回看護キャリア開発委員会
2024年	1月 25日	第4回看護キャリア開発委員会

組織

2023年度

認定看護師教育課程 教員会（当該教育機関内委員）

奥野 信行	京都橘大学看護教育研修センター センター長
多田 千和子	京都橘大学看護教育研修センター 准教授（皮膚・排泄ケア認定看護師）
中務 直美	京都橘大学看護教育研修センター 講師（皮膚・排泄ケア認定看護師）
西本 泰久	京都橘大学健康科学部救急救命学科 教授
餅田 敬司	京都橘大学看護学部看護学科 准教授
那須ダグバ潤子	京都橘大学看護学部看護学科 准教授
小山 智史	京都橘大学看護学部看護学科 准教授
川村 晃右	京都橘大学看護学部看護学科 准教授

看護キャリア開発委員会

奥野 信行	京都橘大学看護教育研修センター 所長
梶谷 佳子	京都橘大学看護学部長
征矢野 あや子	京都橘大学看護学部看護学科 教授
工藤 里香	京都橘大学看護学部看護学科 准教授
中橋 苗代	京都橘大学看護学部看護学科 准教授
下田 優子	京都橘大学看護学部看護学科 専任講師

認定看護師教育課程

認定看護師教育課程

1. 認定看護師教育課程〈皮膚・排泄ケア分野〉の研修について

認定看護師教育課程〈皮膚・排泄ケア分野〉は、「特定行為研修を組み込んでいる教育課程」(B課程)に移行し、開講2年目となる。今年度は、全国の皮膚・排泄ケア認定看護師教育機関4校のうち、3校がB課程、1校が「特定行為研修を組み込んでいない教育課程」(A課程)での開講となり、当学は4.1倍の受験倍率を経た30名が入学した(16期生)。B課程に移行しても皮膚・排泄ケア認定看護師のニーズは高く、当学を受験し入学する研修生は関西圏のみならず全国から集まっている。

4月10日に入学式を挙行し、4月から7月はeラーニングによる共通科目380時間を学び、その間に3日間×2回の登校日を設け、共通科目の学習を深めるグループワークや科目試験を行った。7月24日から集合教育を行い、263時間の皮膚・排泄ケア分野の専門科目を学んだ。当学のB課程で修了できる特定行為区分は、創傷管理関連の「褥瘡又は慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去」と「創傷に対する陰圧閉鎖療法」、栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連の「持続点滴中の高カロリー輸液の投与量の調整」と「脱水症状に対する輸液による補正」の4行為である。特に創傷管理関連は、確実な手技の習得と正しい判断が重要となるため、試験はOSCEや観察評価で行った。皮膚・排泄ケア分野の創傷・ストーマ・排泄に関しては実技演習と症例検討の演習時間を確保して、知識と応用力を高める学習をした。

すべての共通科目、専門科目の科目試験に全員が合格し、10月30日から150時間の認定看護師の臨地実習を開始した。昨年に比べCOVID-19等感染症拡大の影響は少なかったが、体調管理に留意しながら実習を行った。規程の実習時間を確保し、1名は追

加課題を要したが、30名全員が合格となった。

12月11日から1月31日は特定行為の実習を行った。特定行為実習は、研修生が所属する自施設並びに当学の協力施設である実習施設で4行為をそれぞれ5症例以上経験し、全員が指導医から合格の評価を得ることができた。

2月1日から再び集合教育を開始した。統合演習において実習の振り返りとケースレポートの作成・発表を行い、3月1日に修了試験を行った。学内演習、修了試験ともに全員が合格し3月15日に修了式を挙行した。

これにより当学の認定看護師教育課程の修了生は通算438名となった。

2. 認定看護師認定審査に対するフォローアップ研修

2023年3月に修了した15期生19名に対し、10月4日に行われる日本看護協会の認定審査試験に向けてフォローアップ研修を3回行った(5月、7月、9月)。今年度は、集合による研修を再開した。研修では、認定審査を仮定した模試に取り組み、解答と解説は19名でディスカッションを行った。これにより審査に向けて自己に足りない知識を再確認し、モチベーションを保つことを目的としている。

2023年度の認定審査試験は、19名受験/19名合格(合格率100%)であった。

3. 修了生対象の第8回フォローアップセミナーの開催

2024年2月23日に、本学アカデミックリンクス(オンライン同時開催)において、第8回フォローアップセミナーを開催した。今回は超高齢化社会における皮膚・排泄ケア認定看護師の実践に焦点を当て、「高齢者看護と皮膚・排泄ケア～超高齢社会におけ

る皮膚・排泄ケアを考える～」というテーマとした。地域で活躍している①認知症看護認定看護師、②慢性疾患看護専門看護師、摂食・嚥下障害看護認定看護師の2名から、認知機能が低下している高齢者のストーマケア、摂食嚥下機能に問題がある患者のポジショニングについて講演して頂いた。

参加者は、対面59名、オンライン145名で、アンケート（回収率81.8%）では約95%が「大変有意義だった」「有意義だった」と回答していた。受講者からは、「他分野の認定看護師から、専門的な知識を得ることができてよかった」「実技があってよかった」という声が多く聞かれていた。今回のセミナーを受講することで、改めて基本的な高齢者の特徴を学び、より良い皮膚・排泄ケアとは何か、高齢者看護の新たな知識を得ることができたと考える。

4. 教員の専門領域の活動について

【多田千和子】

- 1) 京都橘大学看護学部に対し、下記の講義を行った。
 - ①看護学部3回生
生涯健やか看護学 2コマ・生涯健やか看護学演習 2コマ
「排泄することに問題をかかえ生活している人を支える在宅看護（ストーマケア）」
「清潔と皮膚を保護することに問題を抱え生活している人を支える在宅看護（スキンケア・スキン-ケア）」
- 2) 以下の関連学術集会において活動した。
 - ①日本褥瘡学会チーム医療推進委員会委員、評議員
 - ②日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会認定看護師委員
- 3) 以下の関連学術集会に参加し、最近の知見や情報収集を行い研修教育に活用した。

- ①第32回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会（仙台市）一般演題（示説）座長
- ②第24回日本褥瘡学会学術集会（神戸市）
- ③第4回日本フットケア・足病医学会年次学術集会（宜野湾市）
- ④第41回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学術集会（横浜市）

【中務直美】

- 1) 明治国際医療大学看護学部に対し、下記の講義を行った。
 - ①看護学部2回生
基礎看護援助論Ⅲ「皮膚・創傷を管理する技術について」講義と演習 3コマ
- 2) 京都橘大学看護学部に対し、下記の演習を行った。
 - ①看護学部3回生
生涯健やか看護学演習 2コマ
「排泄することに問題をかかえ生活している人を支える在宅看護（ストーマケア）」
「清潔と皮膚を保護することに問題を抱え生活している人を支える在宅看護（スキンケア・スキン-ケア）」
- 3) 以下の関連学術集会に参加し、最近の知見や情報収集を行い研修教育に活用した。
 - ①第32回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会（仙台市）
 - ②第24回日本褥瘡学会学術集会（神戸市）
 - ③第4回日本フットケア・足病医学会年次学術集会（宜野湾市）
 - ④第41回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会学術集会（横浜市）
 - ⑤第21回日本褥瘡学会近畿地方会学術集会（京都市）

看護教育研修センター 准教授
皮膚・排泄ケア認定看護師 多田 千和子

看護キャリア開発事業

■2023年度 たちばなSIM. 16

■2023年度 看護倫理研修 20

■2023年度 たちばなSIM.

京都橋大学看護学部では、2012年度から卒業生に対するキャリア開発事業として、シミュレーション学習を中心とした研修プログラム「たちばなSIM.」を開催している。最初は卒業生のみを対象としたが、「同僚も一緒に参加したい」という卒業生や「病棟の新人を参加させたい」という実習先の病棟からの声を受けて、2017年度からは卒業生のみという枠を外した。参加者を卒業生のみ限定するのではなく、職場の同僚も誘って来てもらうことで、より訪れやすくなったのではないと思われる。

2023年はCOVID-19が5類にはなったが、参加者はまさにCOVID-19の影響下で学生生活を送ってきた者ばかりである。臨床での実践の中での迷いも多いのではないかと開催する教員は企画の段階から心配しながら準備を進めていた。開催当日、教員の心配をよそに、参加者は生き生きと、交流しながら

お互いに学びあい、本学での「シミュレーションから学ぶ力」を十分に発揮していた。頼もしい限りである。

例年通りオープンキャンパスと同日の開催となったため、来場した高校生も興味津々、見学し、心肺蘇生法など、参加者から手ほどきを受けて実践もしていた。

第1回は6月11日(日)13:00~16:30に開催した。テーマは「心不全患者と呼吸不全患者をマモル!!」とし、2つの症例患者に対して状態把握に必要な観察・アセスメントを行う内容であった。ファシリテーターは、グループディスカッションが促進されるように関わり、和気あいあいとした雰囲気になるよう努めていた。

第2回は7月16日(日)13:00~16:30に開催した。テーマは「母体急変時の初期対応～母体が急変して

表1 2023年度「たちばなSIM.」開催概要(開催場所:シミュレーションcommons)

回	第1回	第2回
日 程	2023年6月11日(日)	2023年7月16日(日)
テ ー マ	心不全患者と呼吸不全患者をマモル!!	母体急変時の初期対応
担 当 者	小山・野島・萬代・室住・足立	工藤・坂永・畑野・下村・野島・下田
調 整 者	三村・野島	三村・下田・工藤
受 講 人 数	5名(申込者5名)	8名(申込者8名)
プ ロ グ ラ ム	アイスブレイキング 講義 【復習】心不全ってなんでしょね? 事例紹介 動画視聴 ディスカッション Sharing	アイスブレイキング 心肺蘇生(見学者も一緒にやってみよう) 京都プロトコル 事例紹介 ディスカッション Sharing

表2 2022年度「たちばなSIM.」アンケート調査結果

回	第1回	第2回
テーマ	心不全患者と呼吸不全患者をマモル！！	母体急変時の初期対応
1. たちばなSIM.は、興味を引く内容でしたか（1：全く思わない～ 5：とてもそう思う）		
	5（とてもそう思う） 4名（80.0%）	5（とてもそう思う） 7名（87.5%）
	4 1名（20.0%）	4 1名（12.5%）
2. たちばなSIM.は、興味を引く内容でしたか（1：全く思わない～ 5：とてもそう思う）		
	5（とてもそう思う） 4名（80.0%）	5（とてもそう思う） 8名（100%）
	4 1名（20.0%）	
3. たちばなSIM.を受講して「やればできそうだ」と思えましたか（1：全く思わない～ 5：とてもそう思う）		
	5（とてもそう思う） 3名（60.0%）	5（とてもそう思う） 5名（62.5%）
	4 2名（40.0%）	4 2名（25.0%）
		3 1名（12.5%）
4. たちばなSIM.を受講した満足度を「1」を最も低い、「5」を最も高いとしてお答えください。		
	5 3名（60.0%）	5 6名（75.0%）
	4 1名（20.0%）	4 2名（25.0%）
5. 参加した感想をなんでもお書きください。また今後たちばなSIM.で実施してほしいテーマがございましたら、お聞かせください。（記載内容：原文）		
	<ul style="list-style-type: none"> ・人工呼吸器管理の患者さんの対応 ・基礎的でありつつも実践に大事な所をたくさん気づかせて貰えるような研修でした。ありがとうございました ・最近学ぶ姿勢が欠けていたと自覚していたのでこのような機会があって向上心が湧きました。 ・色々振り返ったりして学びが多くありました。今日参加出来て本当に良かったです。ありがとうございました。 ・役に立つシミュレーションありがとうございました！また機会があれば参加したいなと思いました！ ・勉強になりましたし、勉強する意欲もわきました！ ・事例を一通りシミュレーション形式で経験出来、必要な処置、優先すべき事項等を練習しながら検討出来て良かった。超緊急帝王切開の出棟までの流れのシミュレーションをやっていただけでも嬉しい。 ・色々な役のシミュレーションを通して、救命に必要な観察力やまわりのスタッフとの協力体制が大事なのだと感じることができました。より高度な挿管やアドレナリンなどの投与は興味があるので、そこも学べるようになっていきたいです！ 	



図1 第1回 事例説明



図4 第2回 高校生も一緒に心肺蘇生



図2 第1回 事例検討



図5 第2回 シミュレーション



図3 第1回 シミュレーション



図6 第2回 デブリーフィング

も、チームで冷静に対応できる看護職になろう！」とし、分娩進行中に咳がではじめた妊婦（羊水塞栓）と正常経陰分娩後の褥婦の異常（弛緩出血）の2つの症例のシミュレーションを実施した。産褥婦の異変に気づいた助産師が、適切に初期対応でき、チームで対応していくための行動を問われるシミュレーションであった。参加者は熱心にシミュレーションに取り組み、デブリーフィングでの意見交換も活発に行われていた。今回、助産師だけでなく、医師の役割、先輩助産師の役割など、自分以外の者は、何を考えて動いているのか、を皆でディスカッションすることができた。助産領域における急変対応のシミュレーションは体験する機会がまだまだ少ない現状があり、参加者にとって貴重な学びの機会になったといえる。

たちばなSIM. に参加することで、前もって様々な症例の、様々な変化を経験することで、実際に現

場で起きた時に、少しでも行動できることに繋がると期待している。デブリーフィングでは、基本的な知識を振り返りながら、対象者理解やケアの優先順位、それぞれの経験を活かした役割分担を学んでいってほしい。

全プログラムを通して、参加者のアンケート結果から、日々の看護に役立つ内容であった、学習する意欲が上がったという評価を得ている。知識や技術だけでなく、自身の看護実践における行動について振り返ることに繋がっていたといえる。母校（もしくは同僚の母校）で学ぶ機会として、今後もたちばなSIM. を充実させていき、卒業生のニーズに応じたプログラムを提供していきたい。そして、これからも一緒に「人によりそう看護とは何か」を追求していきたい。

看護学部 准教授 工藤 里香

■2023年度 看護倫理研修

京都橋大学看護学部では、2018年度より看護職者を対象とした「看護倫理研修」を開催している。今年度は、2023年9月30日（土）に「臨床で直面する倫理的課題にどう向き合うか？—事例を通して考えよう—」をテーマに、研修会を実施した。研修会では、参加者同士が気軽にディスカッションができ、看護実践の中に潜む倫理的問題について学びが深まるような工夫を行った。スケジュールは表1の通りである。

1. 看護倫理研修会の概要

申込みは25名であったが、直前のキャンセルもあり参加者は21名、全員対面での実施であった。参加者の看護師経験年数や職位、研修会を知ったきっかけは表2、表3に示す。

参加者の研修参加の動機は、「倫理委員会のメンバーとしての活動しているため」「院内研修のヒントが欲しかった」「病棟の倫理ファシリテーターとして学びたい」といった、倫理研修会の企画・運営を目的としたもの、「看護倫理が苦手だから」「倫理についてより深く学びたい」「倫理的感受性を高めるため」といった自己研鑽を目的としたもの、さらに「他の施設の方と話をしてみたい、意見を聞きたい」といった、他施設の人との交流を目的としたもの等であった。

参加者は、前半の講義で看護倫理を学ぶ意義や倫理における歴史的経緯、医療における倫理原則、看護者の倫理綱領など、看護倫理に関する基本的な知識を学習した。後半は、参加者自身が経験した事例をもとに、講義内容を参考にしながらグループディ

表1 スケジュール

時間	内容	担当
13:00~13:05 (5分)	オリエンテーション	中橋
13:05~14:25 (80分)	【講義】 倫理に関する基本的知識、思考プロセスについて講義	梶谷
14:25~14:35	休憩	
14:35~14:40 (5分)	事例検討のすすめ方、グループワークと発表方法について	中橋
14:40~15:50 (70分)	【グループディスカッション】 ・自己紹介、役割分担（司会、書記、発表者等） ・事例の決定・共有 ・事例について分析シートを用いて整理しながら、倫理的な看護実践について検討する。	梶谷 ・ 中橋 ・ 下田 ・ 岩崎
15:50~16:00	休憩	
16:00~16:40 (40分)	発表	
16:40~16:50	研究成果の発表	岩崎
16:50~16:55 (5分)	ファシリテーターからのコメント	梶谷
16:55~17:00 (5分)	研修のまとめ 修了証授与・アンケート	

※ 研修会終了後に相談コーナーを設けた（希望者のみ）

表2 参加者の概要 (N=21)

年齢	20代：2名、30代：3名、40代：9名、50代：7名
看護職経験年数	5年未満：2名、 11～15年：3名、 16～20年：8名、 21年～25年：1名、 26年以上：7名
職場での役職	スタッフ：13名、副師長・主任・副主任等：6名、師長・課長：2名

表3 研修会を知ったきっかけ

チラシ	12名
本学教員からの紹介	4名
友人からの紹介	2名
その他	1名（自施設の看護部からの案内）

スカッションを行った。1グループを4～5名とし、5グループに分かれて実施した。グループは、同じ施設・看護師経験年数・職位が重ならないように工夫した。さらに、1～2グループに1名のファシリテーターを配置し、グループワークが円滑に進むためのサポートを行った。参加者は、最初はやや戸惑いの様子がうかがえたが、ファシリテーターのサポートもあり、時間とともに活発に意見交換がされるようになった。5グループとも臨床現場で遭遇したリアルな事例を取り上げ、4ステップモデルを用いて事例を整理し、看護実践のあり方についてディスカッションを行った。取り上げていた事例は、認知症高齢患者の治療に関する意思決定、意識レベルが低下した患者の意思決定等であった。

また、本年度は新たな試みとして、研修会終了後に相談コーナーを設けた。希望者は2組であり、どちらも現在直面している困難事例について意見を求める内容であった。研究会前のアンケートには、「ラダー研修に活用するにあたり、グループワークの方法などアイデアが欲しい」といった相談内容が記載されていたが、企画・運営に関する相談はなかった。

2. アンケート結果（一部抜粋）

- 1) 本日の研修を終えての今の思い、これから実践してみたいこと
 - ・色々な視点があることに気がつくことができました。普段カンファレンスで話し合っていることも倫理を踏まえた上で行っていることがわかりました。
 - ・とりあえず、ガイドラインを網羅したいと思いました。
 - ・情報の整理からどのように分析するか明確になった。
 - ・何が正しいかや患者にとって善は、何だろうと言うことから考えていきたい。
 - ・日常的に倫理を考え発信していきたいと思えます
 - ・定期的にかンファレンスしたいです
 - ・若手の看護師にも伝えてあげたい
 - ・尊厳、命について考える、人生をひもといていく大切さ、多職種連携の大切さを学んだ
- 2) 倫理的な課題や問題について、もっと考えたいこと、話し合ってみたいこと
 - ・患者の意思決定

- ・患者へのIC
 - ・認知症患者の意思決定支援
 - ・身体拘束や精神科の非自発入院患者に対する倫理的配慮
 - ・ACPを踏まえて考えたい
 - ・組織倫理
- 3) 自由記述
- ・楽しく、あっという間でした。参加して良かったです
 - ・色々な事例が聞いて勉強になりました
 - ・他施設の方と意見交換するのはすごく勉強になります
 - ・グループワークでより深く考察することができました
 - ・もっと事例について検討してアドバイスがもらいたかったです
 - ・他職種も交えて話し合ってみたい
 - ・もっと深掘りしたかったです
 - ・別のケースもあったのですが、時間的制約で話し合えなかった
 - ・自身の病棟で直面した事例について話し合ってみたい

3. 評価と今後の展望

参加者の発言、アンケート結果からは、研修会が日々の看護実践での悩みを共有し、多様な視点でのもの見方に気づき、自己の看護実践を振り返る時間になっていたと考える。「グループワークで深く

考察できた」「他施設の方との意見交換がとても勉強になる」という声からは、自施設ではない場所で話し合いの場を持つことの意義がうかがえた。また、「日常的に倫理を考え、発信していきたい」「定期的にカンファレンスしたい」「若手の看護師にも伝えたい」といった声からは、研修会の学びを積極的に職場に還元しようという姿勢がうかがえ、ジレンマや葛藤を抱える看護職をエンパワーするような内容であったことがわかる。さらに、今年度は、倫理研修会を企画する立場の看護師の参加が増えていたが、事例検討のやり方がわかったという声もあり、企画・運営方法を学びたいというニーズにも応える内容であったと考える。

しかしながら、自身の病棟で直面した事例について検討しなかった、もっと事例について深めたかったという声もあった。今年度から始めた相談コーナーでも、直面している困難事例について助言を求める相談であったことから、今後は、参加者が直面している事例についてさらに深く検討できるよう、1グループの人数や研修会の時間について考えていきたい。

以上より、臨床で働く看護職が、ざっくばらんに話し合い、ゆっくりと看護実践を振り返り、自己の看護実践につなげていけるような研修会のあり方を引き続き検討していきたい。

看護学部 准教授 中橋 苗代



講義



ディスカッション①



ディスカッション②

京都橘大学看護教育研修センター 年報2023

発行：2024年3月

発行・編集：京都橘大学看護教育研修センター

〒607-8175 京都市山科区大宅山田町34

Tel & FAX：075-574-4133

E-mail：cpdn@tachibana-u.ac.jp

URL：http://www.tachibana-u.ac.jp/about/nursing/